

## 76GHz 帯小電力ミリ波レーダー高度化作業班（第3回）議事要旨

- 1 日時：平成26年12月1日（木）16：00～18：00
- 2 場所：中央合同庁舎第4号館1階共用108会議室
- 3 参加者
  - (1) 出席者（順不同、敬称略）  
矢野（主任）、高田潤（主任代理）、青木、青柳、太田、大橋、小竹、柿原、河野、齋藤、佐藤（明山代理）、新行内、瀬川、高田仁、廣瀬、藤本浩、藤本芳、細川、南、山田、吉富
  - (2) 事務局  
森下、上野、水井、鈴木
- 4 議題
  - (1) 前回議事要旨の確認
  - (2) 76GHz レーダーによる野辺山45m電波望遠鏡への干渉評価実施の根拠について
  - (3) 陸上無線通信委員会報告（案）について
  - (4) その他
- 5 配布資料
  - 資料3-1 76GHz レーダーによる野辺山45m電波望遠鏡への干渉評価実施の根拠
  - 資料3-2 陸上無線通信委員会報告（案）概要
  - 資料3-3 陸上無線通信委員会報告（案）
  - 参考3-1 76GHz 帯小電力ミリ波レーダー高度化作業班（第2回）議事要旨（案）
  - 参考3-2 76GHz 帯小電力ミリ波レーダー高度化作業班 構成員

## 6 議事概要

齋藤構成員より資料3-1に基づき説明があった。

事務局より資料3-2及び資料3-3に基づき説明があった。

太田構成員より資料3-3参考資料に基づき説明があった。

陸上無線通信委員会報告（案）について承認された。

主な質疑応答は以下の通り。

【陸上無線通信委員会報告（案）について】

齋藤構成員：与干渉電力が周波数帯域に一様に分散するという仮定をしているが、実際のシステムでもフラットになるのか。

大橋構成員：だいたいそう考えて良い。

齋藤構成員：また、レーダーが 1 台ならば干渉が増加することがないのは確かだが、実運用上では普及率等を考慮しなければならず、単純に干渉が増加することはないと言い切るには懸念がある。やはり電波天文としては、ジオグラフィカルにレーダーをオンオフすることで共存を図ることを期待する。

高田主任代理：普及率については、76GHz 帯レーダーの技術基準が出来た当初の普及予測を大幅に下回っているという現状がある。当初の普及予測で共存可能という前提の元、電波天文業務が割り当てられた経緯を考えると、普及率の議論はその予測を超えたときの議論になるのではないか。

齋藤構成員：当時の背景は承知している。我々も過去にさかのぼってやり直すことは考えていない。今回の差分によって何か実運用が急に变化するようなことになると、一抹の不安が生じるということを申し上げた。

【第 2 回作業班の資料 2-3 について】

大橋構成員：前回齋藤構成員にご説明頂いたレーダーと電波天文業務との干渉検討について、受信アンテナゲインを 0dBi でご検討されているが、実際にはアンテナの角度や地上方向を向いたときのアンテナゲインはどうなるかといった考慮をする必要があり、効率はもう少し低いところにある。そのため、干渉を検討するときに 0dBi の値を用いるのが適当かどうかというのは若干検討の余地があるということを補足する。

齋藤構成員：アンテナゲインについては ITU-R のレコメンデーションである RA.769 を元に検討している。

大橋構成員：ITU-R のレコメンデーションは 0dBi になっているが、現実問題としてそれは議論の余地があるということをコメントとして述べさせていただく。

藤本構成員：これは 0dBi で良いのではないか。ケースバイケースによるので、0dBi が適当かどうかというのはここで言う議論ではない。

高田主任代理：ここでの議論の前提として RA.769 はきちんとリスペクトすることになっており、技術基準を決めるに当たってレコメンデーションを考慮するかどうかというのは本作業班の議論の範囲ではない。今の件については、意見の表明として議事録に残すのが適切であると考えます。

大橋構成員：了解した。